

学生の確保の見通し等を記載した書類

岩手保健医療大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）

目 次

| | |
|---|---|
| 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 | |
| (1) 学生の確保の見通し | 1 |
| ① 定員充足の見込み | 1 |
| ② 定員充足の根拠となる客観的なデータ | 1 |
| ③ 学生納付金の設定の考え方 | 4 |
| (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況 | 4 |
| 2. 人材需要の動向等社会の要請 | |
| (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究目的 本学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）において養成する人材 | 5 |
| (2) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの 客観的な根拠 | 6 |
| ① 大学院教育の方向性 | 6 |
| ② 岩手県及び青森・秋田両県隣接地域における看護系大学院の 設置状況からみた需要 | 6 |
| ③ 岩手県における看護に係る大学院教育の要請 | 7 |
| ④ 進学意向調査から見る進学後の研究領域 | 8 |

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

①定員充足の見込み

本学では、今回申請の大学院看護学研究科看護学専攻を設置するに当たり、岩手県内の大学院レベルの教育の実態とともに、地域が大学院教育に求めるものは何かについて、平成30(2018)年10月、県内の主な病院の看護管理者(総看護師長、看護部長)及び看護学校教育責任者(教務主任、学校副校長)に対して事前の聞き取り調査を行った(詳細は、後述の「(2)社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること」の客観的な根拠 ③岩手県における看護に係る大学院教育の要請」を参照)。

これらの結果から、①病院等の施設での看護研究の取組みに課題があること、②大学院修了者としての需要が高い分野は、「在宅看護」「高齢者看護」「看護管理」「看護教育」であり、CNS等専門看護師コースの設定と回答した管理者等は意外にも少ないことが分かった。

本大学院看護学研究科は、専攻内の教育・研究領域の設定に当たり、以上のような岩手県内の状況を踏まえ、これに沿った計画を立て申請に至っている。

入学定員については、県内他大学(岩手県立大学)の入学状況、令和元(2019)年11月に実施した病院等医療機関の看護職及び本学学部在学学生に対する進学に関するアンケート調査(詳細は、後述)の結果及び本学の現教員体制での責任ある受入れ等を入念に検証し、当面、入学定員は、3名として出発することにした。

入学定員の充足については、岩手県における大学院教育に求める人材養成の現状、現実に大学院進学を希望する者の予測値、また進学する際の修学上の配慮(比較的低額な授業料等の設定、昼夜開講、長期履修生制度、インターネットを活用した遠隔授業の採用等)を行うことで、入学定員3名は十分確保可能と考えている。さらに、持続的な定員の確保については、修了生が現場に戻り、大学院での学修成果を発揮していくことで、病院等各医療現場の意識も高まり持続的に進学者が出てくることを期待している。

②定員充足の根拠となる客観的なデータ

ア、岩手県内の看護系学部及び大学院の設置状況

岩手県内の看護系大学は、令和元(2019)年4月現在、公立大学の岩手県立大学看護学部看護学科(入学定員90人)、私立大学は、岩手医科大学看護学部看護学科(入学定員90人)と本学看護学部看護学科(入学定員80人)であり、3大学の入学定員の

合計は、260人となっている。

そのうち大学院を設置する大学は、岩手県立大学大学院看護学研究科のみであり、その入学定員は、15人となっている。

看護学分野における高度な人材養成の必要性が求められている中、岩手県においては、学部教育の整備状況も十分とは言えないが、高度な専門性的人材養成の役割を担う大学院の整備状況は、さらに拡充していく必要があると考えている。

なお、岩手県内唯一の岩手県立大学大学院看護学研究科の定員充足率は、平成29(2017)年度から令和元(2019)年度までの平均が37.5%となっているが、本学が計画している看護学の教育・研究領域(看護学領域)との違いもあり、これがそのまま需要状況とは考えていない。むしろ大学院設置を契機に本学が目指す看護学領域の充実が図られ、岩手県立大学と競合していく中で、岩手県及び東北地方の医療現場における看護のレベルアップが図られていくものと考えている。

【資料1:岩手県内の看護系大学及び大学院の設置状況並びに定員充足状況】

イ、岩手県に隣接する地域の看護系学部及び大学院の設置状況

隣接する青森県の三八上北地域(主要都市：八戸市、三沢市、十和田市)の看護系大学は、令和元(2019)年4月現在、私立大学の八戸学院大学人間健康学部人間健康学科(入学定員90人)のみであり、看護系の大学院は、設置されていない。

同様に岩手県に隣接する秋田県の内陸地域(主な都市：大館市、鹿角市、大仙市、横手市、湯沢市)の看護系大学は、私立大学の秋田看護福祉大学看護福祉学部看護学科(入学定員50人)があるが、看護系大学院は、設置されていない。

以上のような隣接県の状況及び後述のアンケート調査(進学意向調査)からも、これらの地域からの本学大学院への進学も期待できる。

【資料2:岩手県に隣接する看護系大学及び大学院の設置状況】

ウ、病院等医療機関の看護職及び本学看護学科学生に対する進学意向調査

本大学院を設置するに当たり、令和元(2019)年11月、本大学院の設置構想の概要を明示し、岩手県及び青森県内の病院等医療機関の看護職、岩手県内の看護系専修学校の教員及び本学看護学科在学生に対しアンケート調査(進学意向調査)を実施した。調査の結果は、以下のとおりである。

<医療機関の看護職等(社会人)の進学意向調査>

本大学院を設置するに当たり、令和元(2019)年11月、学生確保の可能性や本学

が構想している計画の妥当性について、本大学院の設置構想の概要を明示し、岩手県及び青森県内の病院等医療機関の看護職並びに岩手県内の看護系専修学校の教員に対しアンケート調査（進学意向調査）を実施した。

病院等医療機関については、200床以上又は臨地実習先の岩手県内病院(29施設)、200床以上の青森県内病院(30施設)の59施設に各施設10人分のアンケート調査を依頼した。また、専修学校については、岩手県内専修学校(10校)に各4人分のアンケート調査を依頼した。

総計630名分のアンケート調査をお願いした結果、回答が得られた病院等医療機関は、岩手県内病院は17施設で131人、青森県内病院は10施設で73人、岩手県内専修学校は5校で13人の計217人から回答があった。回収率は、34.4%であった。

進学を希望するかどうかについては、「進学を希望」2人(0.9%)、「一応進学を考える」39人(18.0%)、「今後何年か仕事をしてから進学したい」17人(7.8%)であり、進学意向のあると回答した者は、58人(26.7%)であった。

また、大学院進学を希望する理由を質問したところ、「自らのキャリアアップにつながるから」が42人(72.4%)、「看護の専門性を高めたいから」41人(70.7%)、「資格につながるから」13人(22.4%)との回答(複数回答)であった。

病院等医療機関の看護職等(以下「社会人」)の進学希望等の状況は、以上のとおりであるが、社会人にとってのキャリアアップや就業現場の課題解決につながるような魅力あるカリキュラムを提示し、医療施設や看護者に対して広報していくことにより定員を確保していきたい。

また、岩手県における看護教育のレベルアップの重要性はすでに述べたが、広く東北地方として捉えても、大学院の数も限られる中、社会的な必要性は高い。アンケートの結果を見ても、臨床現場の看護師や看護専修学校の教員が自らのキャリアアップや専門性の向上の必要性を感じ進学を考えている者も多く、働きながら学修が進められる条件を整えば、さらに需要は高まるものと考えている。

【資料3-1：医療機関及び専修学校教員用アンケート用紙】

【資料3-2：医療機関及び専修学校教員用アンケート結果】

<本学看護学科在学生（在学生）の進学意向調査>

上記と同様の調査を、令和元(2019)年11月、本学の看護学部に在籍している1～3年次生205人(1年生60人、2年生84人、3年生61人)を対象として、その意向を調査した。196人から回答があり、回収率は95.6%であった。

その結果、「卒業後すぐに進学を希望する」6人(3.1%)、「一応進学を考える」

17名(8.7%)、「今後何年か仕事をしてから進学したい」13人(6.6%)と進学意向があると回答した者が、36人(18.4%)であった。

卒業後直ちに進学を考えている者もあり、看護学の学修を進める中で、さらに高度な知識等の必要性を感じている学生も多くいることが確認できた。

また、「今後何年か仕事をしてから進学したい」は、社会人では7.8%、在学生では6.6%の回答があったことから、将来的な学生確保についても十分可能であるものと考えている。

以上のように、社会人、在学生ともに一定の需要が確認され、入学定員3名の確保は十分可能であるものと考えている。【資料4-1：在学生用アンケート用紙】

【資料4-2：在学生用アンケート結果】

③学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、本学の財務状況、岩手県の給与水準、さらに県内唯一の看護系大学院である岩手県立大学大学院の学生納付金(入学金225,600円、授業料535,800円)を参考に、入学金を250,000円、授業料を550,000円に設定した。

なお、財務状況は、教員の人件費や研究費については学部と大学院予算は不可分なところもあるが、大学院学生に係る教育研究経費、図書・設備等整備費等については別途予算計上することとしている。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

認可申請中の学生確保のための広報活動については、「認可申請中」であることを明示し、予定の教育・研究内容等に関する基本構想について、大学のホームページや簡易な印刷物等により周知することに努める。

また、設置認可後は、ホームページや大学院案内冊子、募集要項に、入学試験制度、教育課程、教育指導方針、教員に関する情報、昼夜開講や長期履修生制度等の学修上の特長等を総合的に分かりやすく紹介していく。

本学の広報活動は、これまでも教職員一丸となって岩手県内及び近県の高校を訪問し進路指導教員に丁寧な説明を行ってきており、その他、大学案内の配布、オープンキャンパスの開催、進学相談会への参加、マスメディアでのCM広告等を積極的に行ってきた。

大学院においても学部の広報活動と同様に、前述の医療機関等に教員自ら出向き、積極的な募集広報活動を展開することとしている。

【資料5：学生確保に向けた具体的な取組内容】

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究目的

本学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）において養成する人材

中教審答申（平成 17 年 9 月「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」）の中では、修士課程の目的・役割として 4 点が謳われている。本大学院看護学研究科看護学専攻は、そのうちの一つである「基礎および応用看護学の教育・研究によって、幅広い視野と種々の看護問題への優れた対応能力を培い、保健・医療・福祉現場や教育・行政をはじめとする知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材」の養成を目指すこととしている。

この方向性を目指す背景には、岩手県における、特に震災以降の医療過疎や医療偏在の問題、全国平均を上回る高齢化率の増加による健康問題や高齢者の単独世帯の増加、看護師が大学の附属病院や大規模病院に集中することによる都市部と地方における看護師の偏在、地方の中小規模病院における卒後教育の運営を含め、教育プログラムを立案・実施していくための人材の確保に課題があるなどの解決に向けて少しでも寄与したいとの思いによる。

このことは、県内の看護職が集まる講演会や講習会、看護実習打合せ、看護研究コンサルテーション等の場で、現場の看護研究を指導・推進する人材や専門職者間の相互教育、新人看護師の継続教育を担う人材の必要性を訴える多く声が裏付けてもいる。

このため、本学は、以上のような岩手県の現状を踏まえ、看護学領域の研究と多様化する高度医療ニーズに対応できる人材として、確かな医療や看護の倫理観を備え、広い視野と深い人間理解に基づき、保健、医療、福祉等の幅広い知識と看護実践力を身につけた看護専門職者を育成することを目的とし、以下の 3 つの看護学領域（研究領域）を設け、教育・研究を展開（詳細は、「設置の趣旨等を記載した書類」P12～13に記載）することとした。

<基礎・地域連携看護学領域>

本領域は、さまざまなライフサイクルや健康段階にある人々への看護実践の基盤となる看護援助を探究することとし、看護実践の理論的背景、根拠に基づく看護援助技術の実証的研究を行う。

<臨床・応用看護学領域>

本領域は、小児、老年等の各々の臨床領域における効果的な看護援助の要因分析、

援助方法の開発・実施・評価に関する研究を行う。

<看護管理学領域>

本領域は、看護管理者に必要とされる組織運営、組織調整、看護行政・政策に関する研究や看護学的観点からの看護組織の構築と運営、施設の経営参画等について看護組織が果たす役割について研究する。

本学大学院を修了した学生は、本大学院での学修をとおして高めた研究力や教育能力を活かして、自らの臨床の場に戻り、多職種との連携・調整の役割を果たすことが期待されるであろうし、教育担当や管理者としての役割を果たし、職場や地域の看護の質を高めることに貢献していくものと期待している。

また、専修学校の教員で本学大学院に進学し、修了した学生は、専修学校に戻って、本大学院で学修した研究を基盤にした科学的根拠に基づいた、より高いレベルの教育を実施していくことが期待される。

(2) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①大学院教育の方向性

本学の大学院教育の方向性は、前述の「(1)人材の養成に関する目的その他の教育研究目的(本学大学院看護学研究科において養成する人材)」で示したとおり、平成 17 年 9 月に中教審答申が示した修士課程の目的・役割の一つである「基礎および応用看護学の教育・研究によって、幅広い視野と種々の看護問題への優れた対応能力を培い、保健・医療・福祉現場や教育・行政をはじめとする知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材」の養成を行おうとするものであり、中教審答申が示す方向性に沿ったものであり、また、岩手県が抱える医療、看護に係る現状・課題に応えることができる設置構想となっているものと考えている。

②岩手県及び青森・秋田両県隣接地域における看護系大学院の設置状況からみた需要

平成 31(2019)年 4 月現在、岩手県及び青森・秋田両県の隣接地域における看護系大学院は、岩手県立大学大学院看護学研究科のみである。

本学研究科が設置予定の看護学領域は、「基礎・地域連携看護学領域」、「臨床・応用看護学領域」、「看護管理学領域」の 3 分野であるが、看護管理者に必要とされる組織運営、組織調整、看護行政・政策に関する研究や看護学的観点からの看護組織

の構築と運営、施設の経営参画等について看護組織が果たす役割について研究する「看護管理学領域」は、近接の他大学院にはない分野である。

一方、他の領域は、岩手県立大学大学院看護学研究科においても設置されているが、岩手県のみならず全国的にも少子・高齢社会が進展する中、これらの分野の高度な専門的知識を有する看護職者のニーズは益々高まると予想されることから、必ずしも競合するものではないと考える。

また、近年の看護系教育機関の急増は、全国的に看護学教員の不足をもたらしており、教育・研究を担う人材の養成も急務となっている。本学大学院で研究を進め、これらの道に進むことを目指す人材の養成にも貢献するものと考えている。

③岩手県における看護に係る大学院教育の要請

大学院の設置に当たって、岩手県内の大学院教育への期待や医療現場の課題を把握することを目的に、平成 30(2018)年 10 月、県内の主な病院(11 施設)の看護管理者(総看護師長、看護部長)と看護学校教育責任者(教務主任、学校副校長)(11 施設)に対して聞き取り調査を実施した。

主な質問内容は、①施設での看護研究の取り組み状況、②看護系大学院修了者の採用の意向と専攻分野、③大学院進学のための支援システムについて、であった。

①については、施設内での看護研究に「積極的に取り組んでいる」とした施設は 3 施設 (14%) であり、「あまり取り組めていない」「全く取り組めていない」は 9 施設(41%)であった。

②については、大学院修了者を採用したいと考えている管理者は、「考えている」が 5 施設(28%)、「少しは考えている」8 施設(44%)、「採用したい又は需要が高いと考える専攻分野」では、「論文コース(在宅看護：9 件、高齢者看護：8 件、看護管理：7 件、看護教育：7 件)」13 施設(73%)、「CNS 等専門看護師コース(感染、在宅、家族、高齢者、がん、慢性)」6 施設(27%)であった。

③進学する際の修学支援システムについては、土日開講 19 件、オンライン授業 15 件、授業料減免等の支援 10 件、就業年数延長システム(長期履修生制度) 9 件、昼夜開講 8 件等であった。

以上のことから、修士課程修了者の活躍の場は、病院等の医療機関の研究推進者や専修学校の教育者であることが確認でき、この方向性に沿った大学院の設置を検討してきた。

なお、特に社会人の進学に当たっては、意向調査から得た意見を取入れ、修学上の支援システムとして、昼夜開講制、長期履修生制度、インターネットを利用した遠隔

授業等の実施を取入れた計画としている。

【資料 6：大学院構想についての岩手県内のニーズ調査（予備調査）、結果表】

④進学意向調査から見る進学後の研究領域

令和元(2019)年 11 月、岩手県内病院 17 施設で 131 人、青森県内病院は 10 施設で 73 人、岩手県内専修学校 5 校で 13 人の計 217 人(下「社会人」)から回答があった中で進学意向を持つ 58 人と本学の看護学部_に在籍している 1～3 年次生 196 人(以下「在學生」)から回答があった中で進学意向を持つ 36 人について、進学して専攻したい研究領域に関して質問しているが、この結果は、以下のとおりであった。

<社会人の進学後の研究領域>

「基礎・地域連携看護学領域」を選んだ者が 28 人(48.3%)、「臨床・応用看護学領域」が 22 人(37.9%)、「看護管理学領域」が 22 人(37.9%)であった。(重複回答あり)

<在学生の進学後の研究領域>

「基礎・地域連携看護学領域」を選んだ者が 10 人(27.8%)、「臨床・応用看護学領域」が 23 人(63.9%)、「看護管理学領域」が 12 人(33.3%)であった。(重複回答あり)

上記の結果から、本学が岩手県の看護に係る現状認識とこれへの対応の必要性の観点から構想した設置計画と現任看護職者等の課題認識は、概ね一致しており、妥当な設置計画であるものと考えている。

学生の確保 資料目次

【資料1：岩手県内の看護系大学及び大学院の設置状況並びに定員充足状況】

【資料2：岩手県に隣接する看護系大学及び大学院の設置状況】

【資料3－1：医療機関及び専修学校教員用アンケート用紙】

【資料3－2：医療機関及び専修学校教員用アンケート結果】

【資料4－1：在学生用アンケート用紙】

【資料4－2：在学生用アンケート結果】

【資料5：学生確保に向けた具体的な取組内容】

【資料6：大学院構想についての岩手県内のニーズ調査（予備調査）、結果表】

岩手県内の看護系大学及び大学院の設置状況並びに定員充足状況

1. 岩手県内の看護系大学の入学定員

| 区分 | 大学名 | 学部名 | 学科名 | 入学定員 | 合計 |
|----|----------|-----|-----|------|-----|
| 公立 | 岩手県立大学 | 看護 | 看護 | 90 | 260 |
| 私立 | 岩手医科大学 | 看護 | 看護 | 90 | |
| 私立 | 岩手保健医療大学 | 看護 | 看護 | 80 | |

2. 岩手県内の看護系大学院の入学定員及び定員充足率

| 区分 | 大学名 | 研究科名 | 専攻 | H29 | | H30 | | R元 | |
|----|--------|----------------------|-----|-------|------|-------|------|-------|------|
| | | | | 入学定員 | 入学者数 | 入学定員 | 入学者数 | 入学定員 | 入学者数 |
| 公立 | 岩手県立大学 | 看護学 | 看護学 | 15 | 7 | 15 | 5 | 10 | 3 |
| | | 定員充足率 (入学定員/入学者数) | | 46.7% | | 33.3% | | 30.0% | |
| | | 平均定員充足率 | | 37.5% | | | | | |

岩手県に隣接する看護系大学及び大学院の設置状況

1. 青森県三八上北地域（主要都市：八戸市、三沢市、十和田市）の看護系大学の入学定員

| 区分 | 大学名 | 学部名 | 学科名 | 入学定員 |
|----|--------|------|------|------|
| 私立 | 八戸学院大学 | 人間健康 | 人間健康 | 90 |

看護系大学院の設置はない。

2. 秋田県内陸地域（主要都市：大館市、鹿角市、大仙市、横手市、湯沢市）の看護系大学の入学定員

| 区分 | 大学名 | 学部名 | 学科名 | 入学定員 |
|----|----------|------|-----|------|
| 私立 | 秋田看護福祉大学 | 看護福祉 | 看護 | 50 |

看護系大学院の設置はない。

(社会人用)

岩手保健医療大学大学院設置計画に関するアンケート調査

本学では、現在の看護学部の教育内容を深化させた新たな大学院看護学研究科（修士課程）の設置計画を進めております。

このアンケート調査は、皆様の大学院への進学希望についてお聞きし、大学院設置のための基礎資料とするものです。結果は、統計的に処理され、大学院設置申請資料としてのみ用いるものとし、個人にご迷惑をおかけすることは一切ございません。何卒、ご協力を宜しくお願い致します。

大学院設置計画

1. 名称 岩手保健医療大学大学院看護学研究科
2. 開設時期 令和3(2021)年4月
3. 修業年限 2年
4. 専攻 看護学専攻
5. 定員 入学定員3名／収容定員6名
6. 授与する学位 修士（看護学）
7. 修了要件 2年以上在学し、30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。
8. 学費 入学検定料：3万円
入学金：25万円
授業料：年55万円（実習費、施設設備費を含む。）
9. 応募条件 1) 大学を卒業した者
2) 短期大学や専修学校等の卒業生で、看護師等として3年以上の実務経験がある者
10. アドミッションポリシー
 - 1) 専門性の高い看護学の修得を志向する人
 - 2) 看護学専攻の教育を受けるための基礎的な知識や技術を有する人
 - 3) 看護学の教育・研究者として、看護学や看護実践の発展に貢献する意欲を有する人
 - 4) 看護学や看護実践に対する高い探究心を持ち、主体的に学修する意欲を有する人
11. 有職者に対する特別な配慮
 - ・本学研究科では、有職のため、昼間だけでは学修が困難と予測される学生のために、大学院設置基準第14条の規定を適用して、平日のⅥ時限（18：00～19：30）と土曜日Ⅰ～Ⅳ時限（08：50～16：10）の授業も行います。
 - ・修業年限は2年のところ、有職者等には3年間で修了する長期履修制度を採用します。納付金についても、2年間分を3年間で納める制度を考えています。
 - ・遠隔地においても学修が可能なようにインターネットオンライン通信を駆使し、自宅等で受講できるようなシステムとします。

*なお、本設置計画は変更される場合がありますことをご了承ください。

次の設問について該当する番号に○を付けてください。

- 問1 あなたの年齢についておたずねします。
1 20歳代 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳代
- 問2 あなたの性別についておたずねします。
1 男 2 女
- 問3 あなたは、本学に大学院が設置されたら進学を希望しますか。
1 進学を希望する 2 一応進学を考える
3 今後何年か仕事をしてから進学したい 4 希望しない
5 わからない

問3で1～3とお答えの方は、次の問4、問5にお答えください。

- 問4 あなたが、本学大学院に進学を希望する理由は、何ですか。(複数回答可)
1 自らのキャリアアップにつながるから
2 資格につながるから
3 看護の専門性を高めたいから
4 論文作成について学びたいから
5 その他 ()
- 問5 本学では、大学院看護学研究科看護学専攻に以下の領域を設置したいと考えています。あなたが学んでみたいと思う研究領域を選んでください。(複数回答可)

1 基礎・地域看護学領域 (基礎看護学、在宅看護学)

*様々なライフサイクルや健康段階にある人々への看護実践の基盤となる看護援助を探究する。看護実践の理論的背景、根拠に基づく看護援助技術の実証的研究を行う。地域で生活する人々とその家族、療養中の看護の対象者など、様々な状況の看護について探究する。さらに、看護の場を限定せず、地域包括ケアシステムにおける看護課題を研究する。

2 臨床・応用看護学領域 (老年看護学、母性看護学
小児看護学 精神看護学)

*看護援助における科学的根拠に基づいた臨床研究を行います。また、それぞれの看護学分野における効果的な看護援助の要因分析、援助方法の開発・実施・評価に関する研究を行います。

3 看護管理学領域 (看護管理学)

*認定看護管理者(実務経験5年以上、うち3年以上は看護師長相当)の受験資格が取ることができるコースです。認定看護管理者教育課程ファースト・セカンド・サードコースの学修を行います。

その他、大学院研究科に関するご意見や学ぶための条件等がございましたら自由に記載してください。参考にさせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

岩手保健医療大学大学院設置計画に関するアンケート調査結果

アンケート種類(回収数)

医療機関及び専修学校教員用 217、
 内訳：岩手県内病院 131(60%)、岩手県内専門学校 13(6%)、青森県内病院 73(34%)
 学生用 196

共通

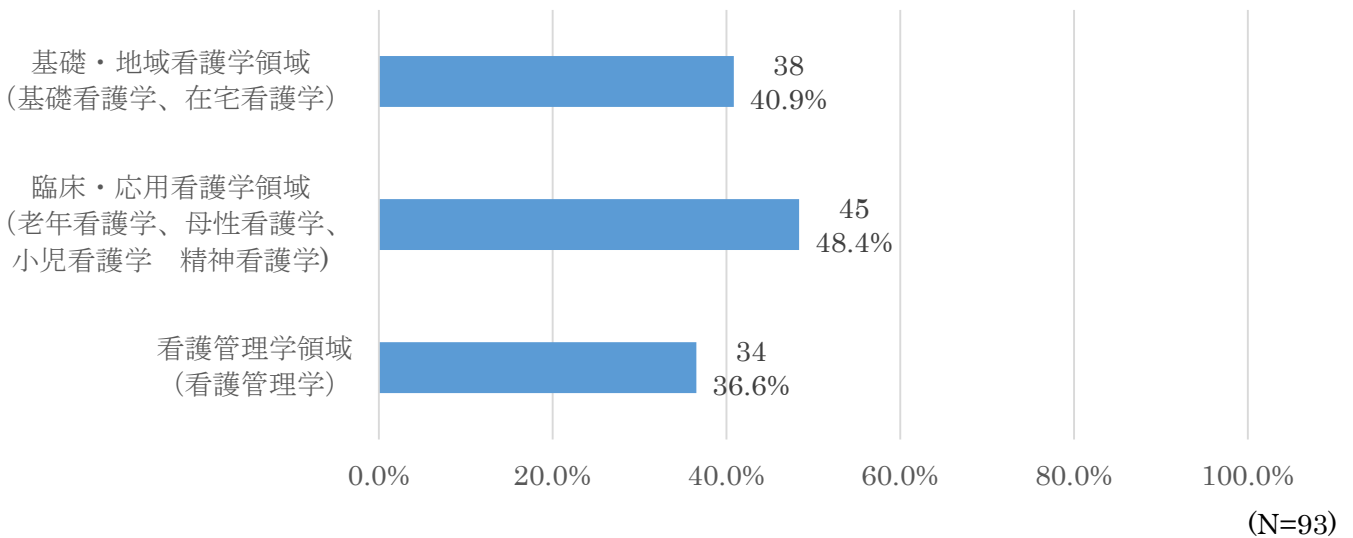


Figure 1 医療機関及び専修学校教員用 問5 及び学生用 問4

「本学では、大学院看護学研究科看護学専攻に以下の領域を設置したいと考えています。
 あなたが学んでみたいと思う研究領域を選んでください。(複数回答可)」

医療機関及び専修学校教員

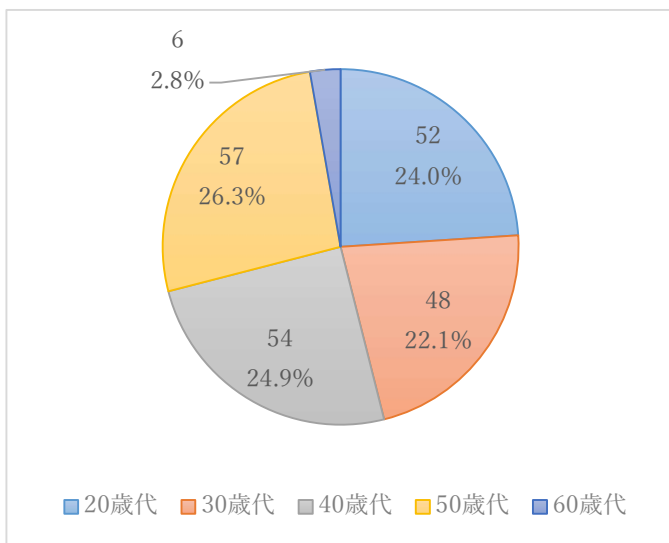


Figure 2 医療機関及び専修学校教員用 問1 年齢

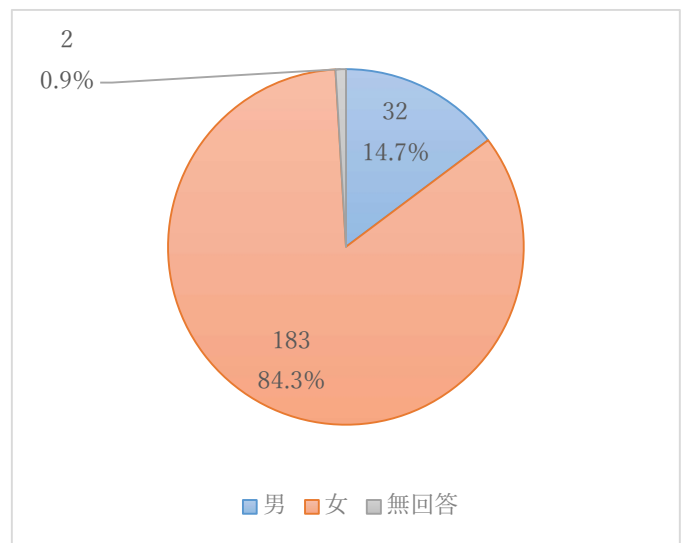
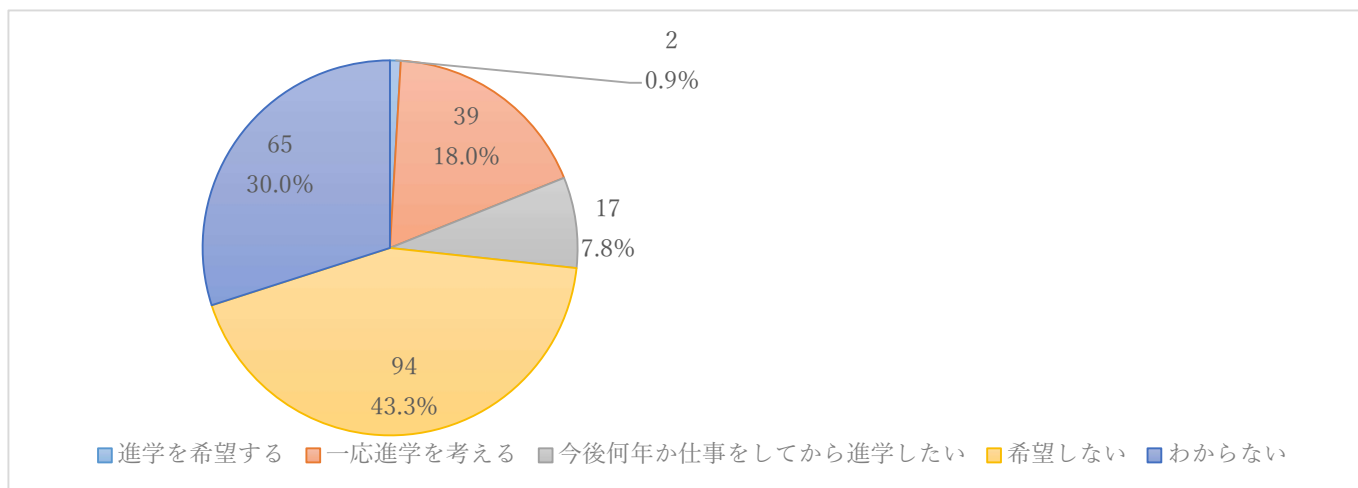


Figure 3 医療機関及び専修学校教員用 問2 性別



(N=217)

Figure 4 医療機関及び専修学校教員用 問3

「あなたは、本学に大学院が設置されたら進学を希望しますか」

*カイ二乗検定より、県別、施設別の有意差無し(2セルが期待度数5未満のため参考値)。

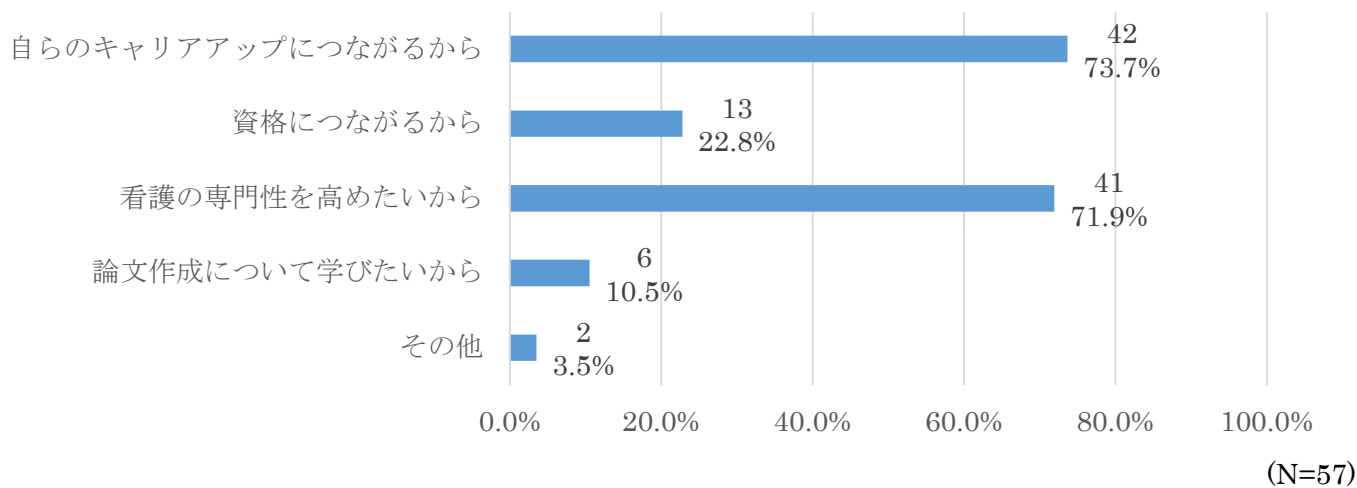
*病院種類別(岩手県内のみ)についても、以下Table 1より差がないと判断できる。

Table 1 病院種類と進学希望のクロス表¹

| 病院種類 | 進学希望 | | | | | 合計 |
|--------|-------------|---------------|-------------------|---------------|---------------|--------------|
| | 進学を希望する | 一応進学を考える | 今後何年か仕事をしてから進学したい | 希望しない | わからない | |
| 200床以上 | 1 (1.2%) | 14 (16.9%) | 7 (8.4%) | 35 (42.2%) | 26 (31.3%) | 83 (100%) |
| 臨地実習先 | 2 (2.4%) | 13 (15.7%) | 8 (19.6%) | 37 (43.4%) | 25 (28.9%) | 83 (100%) |
| 合計 | 2 | 21 | 11 | 56 | 41 | 131 |

(N=131)

¹ 病院種類は、「200床以上」かつ「臨地実習先」という場合もある。



その他内訳：

- *現状を改善したい
- *新しい知識を得たい、より深く学びたい、現状を振り返りたい

Figure 5 医療機関及び専修学校教員用 問4
「あなたが、本学大学院に進学を希望する理由は、何ですか。(複数回答可)」

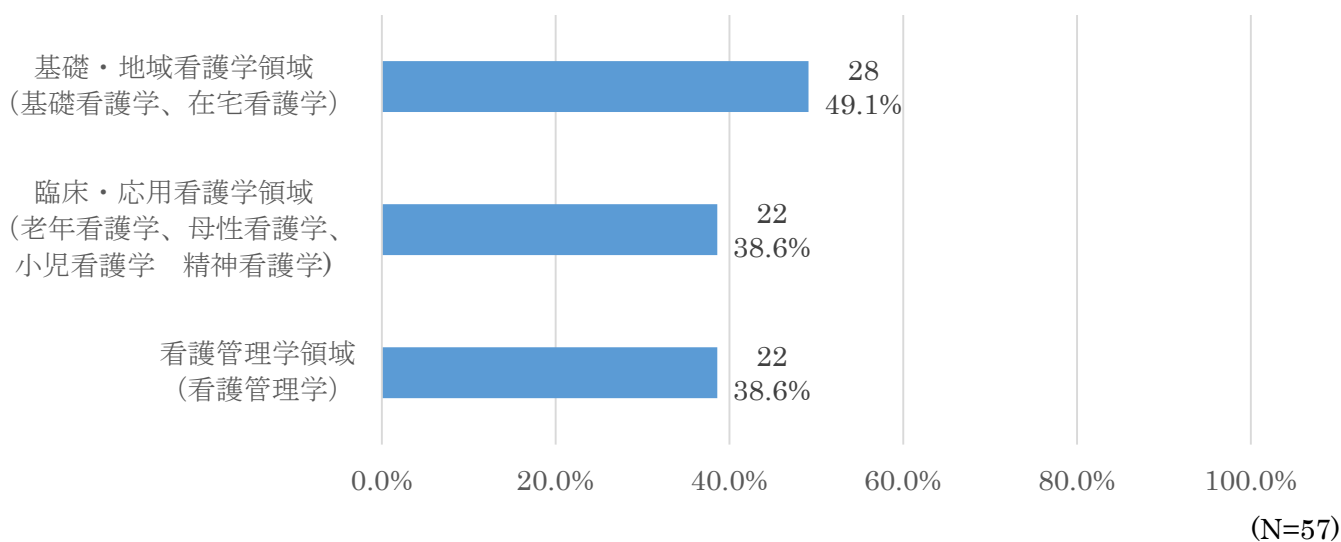
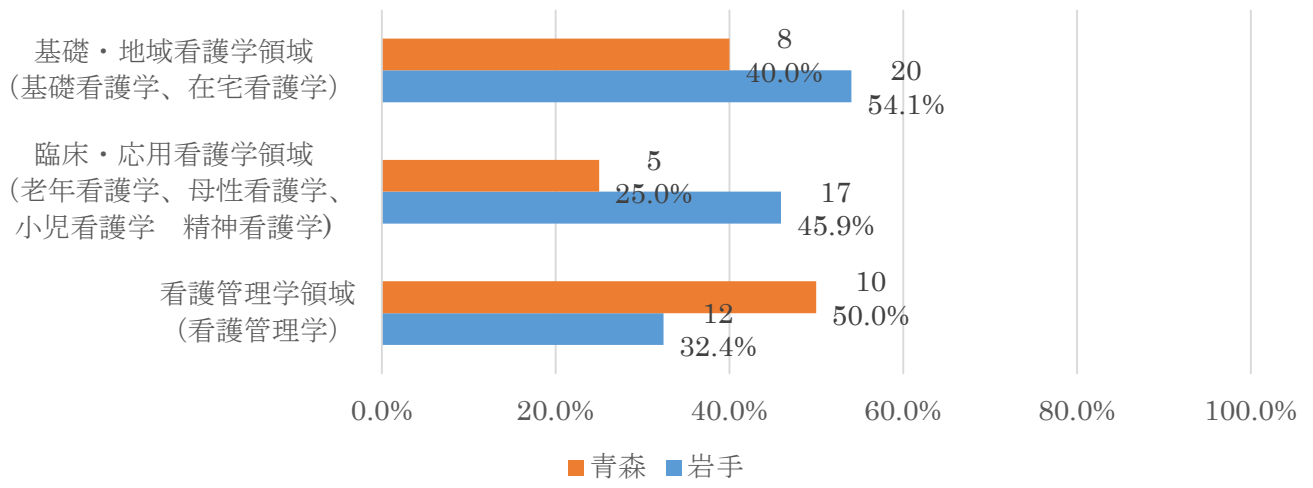


Figure 6 医療機関及び専修学校教員用 問5
「本学では、大学院看護学研究科看護学専攻に以下の領域を設置したいと考えています。
あなたが学んでみたいと思う研究領域を選んでください。(複数回答可)」

* 県別の希望領域については次頁 Figure7 参照。なお、それぞれについてカイ二乗検定を行ったところ、有意差はなかった。



(N=57)

Figure 7 県別希望領域

自由記述 (医療機関及び専修学校教員)

| |
|--|
| 仕事の両立や、経済的な支援の目途が立てば安心できる。Eラーニングなどの充実でスクーリングが少ないと盛岡地域以外でも通学が可能と考える。 |
| 感染制御学や岩手保健学領域を学びたいですが、遠方のためと負担も大きいかと思って躊躇しますが、将来的に新設されるといいですね。(自分は H30 東京医療保健大の感染制御学講座に通学し、その後の大学院進学を考えていました。) |
| 有職者にとって平日の遅い時間帯や土曜に学修できる制度はとても助かります。三交代勤務をしながら大学院を卒業した看護師の話を聞かせていただいたのですが、職場、大学院側双方の配慮がないと達成できなかったそうです。教育の場が新設され専門性を高めていけることはとてもありがたいです。 |
| 遠方でも学修できるよう配慮していただいているのは素晴らしいと思います。学費に関しては奨学金等のシステムがあれば、より前向きに検討できるかと思います。 |
| 専修学校を卒業したが現在の状況を考えると大学進学は難しいと感じていました。このような大学院設置計画があると学んでみたい、学びたいという気持ちになります。 |
| 土曜日授業やオンラインショップ通信による受講システムがあるのは進学に対して前向きになれます。 |
| 通信教育ができることに興味があります。 |
| 30 歳代だったら助産師を目指そうと思っていました。大学院ができることは大変素晴らしいことだと思います。 |
| 県央地域かつ、定時で終わるような職場でないと、平日の受講は困難です。有職者のためのシステム(インターネットオンライン等)をもう少し詳しく提示して欲しいです。 |
| 全国的に cns 養成やナースプラクティショナー養成できる大学院が少ないと思いますので、そのような養成ができるようになれば臨床から大学院に進学希望者が出やすくなるのではないかと思います。 |
| 大学院より何かのコースにのみ受講できるものがあれば参加しやすい。 |
| 専門看護師や診療看護師のコースがあれば考えます。 |
| 資格がとれるようなことが考えたい。 |
| 土日学べるようにしてほしい。 |
| 出来れば看護教員養成課程も設置していただきたい。または、岩手県と共同で看護教員養成課程の研修も引き受け下されば、他県に出向いたり通信課程を、受講しなくて済みます。 |
| 授業料を分割払いにしてほしいと思います。 |
| 自分が 20 歳～40 歳代なら、進学を希望してもいいかなと思います。内容的にとっても魅力的だと感じました。 |
| 老年看護学、母性看護学などだけでなく中身まで詳しく書いてあるとわかりやすいです。(母性なら、助産やリプロダクティブなど) |
| 自宅から遠く、子供がまだ 4 歳なので今は進学について希望できない。有職者に対する配慮があるのは、うれしいと思う。 |
| 「有職者に対する特別な配慮」はとてもいい内容だと思います。進学を考える人にとっては大きいポイントだと思います。 |
| 定員が少なすぎると思います。オンライン通信を駆使して通信科もあれば進学したいです。 |
| 今、現在はわからないのですがこれからを考えると興味はあります。 |
| 看護師養成所の看護専任教員の資格が取得できるようなコースがあると子育て中の教員は助かります。 |

1. 専門看護師や、何らかの特殊な資格が取得出来るのか？
2. 自分が成人看護学(急性期領域・クリティカルケア看護領域)に興味・関心があるが、該当する専門領域の設置がないため、おそらく受験はしないと思う。他にも成人看護学(慢性期領域)の設置がないため、受験をしない社会人もいると思う。今後も、成人看護学領域の設置はないのか？

保健師や助産師の免許をとる受験資格はありますか。

在学生用アンケート用紙

(学生用)

岩手保健医療大学大学院設置計画に関するアンケート調査

本学では、現在の看護学部の教育内容を深化させた新たな大学院看護学研究科（修士課程）の設置計画を進めています。

このアンケート調査は、皆さんの大学卒業後の進路についてお聞きし、大学院設置のための基礎資料とするものです。結果は、統計的に処理され、大学院設置申請資料としてのみ用いるものとし、個人にご迷惑をおかけすることは一切ございません。何卒、ご協力を宜しくお願い致します。

大 学 院 設 置 計 画

1. 名 称 岩手保健医療大学大学院看護学研究科
2. 開 設 時 期 令和3(2021)年4月
3. 修 業 年 限 2年
4. 専 攻 看護学専攻
5. 定 員 入学定員3名／収容定員6名
6. 授与する学位 修士（看護学）
7. 修 了 要 件 2年以上在学し、30単位以上を修得し、修士論文審査に合格すること。
8. 学 費 入学検定料：3万円（本学学生が卒業後直ちに志願する場合は免除）
 入学金：25万円（本学卒業生は免除）
 授業料：55万円（実習費、施設設備費を含む。）
9. アドミッションポリシー
 - 1) 専門性の高い看護学の修得を志向する人
 - 2) 看護学専攻の教育を受けるための基礎的な知識や技術を有する人
 - 3) 看護学の教育・研究者として、看護学や看護実践の発展に貢献する意欲を有する人
 - 4) 看護学や看護実践に対する高い探究心を持ち、主体的に学修する意欲を有する人
10. 有職者に対する特別な配慮
 - ・本学研究科では、有職のため、昼間だけでは学修が困難と予測される学生のために、大学院設置基準第14条の規定を適用して、平日のⅥ時限（18：00～19：30）と土曜日Ⅰ～Ⅳ時限（08：50～16：10）の授業も行います。
 - ・修業年限は2年のところ、有職者等には3年間で修了する長期履修制度を採用します。納付金についても、2年間分を3年間で納める制度を考えています。
 - ・遠隔地においても学修が可能なようにインターネットオンライン通信を駆使し、自宅等で受講できるようなシステムとします。

*なお、本設置計画は変更される場合がありますことをご了承ください。

次の設問について該当する番号に○を付けてください。

問1 あなたの学年についておたずねします。

1 1年生 2 2年生 3 3年生

問2 あなたの性別についておたずねします。

1 男 2 女

問3 あなたは、本学に大学院が設置されたら進学を希望しますか。

1 卒業後すぐに進学を希望する 2 一応進学を考える
3 何年か仕事をしてから進学したい 4 希望しない
5 わからない

問3で1～3とお答えの方は次の質問にお答えください。

問4 本学では、大学院看護学研究科看護学専攻に以下の領域を設置したいと考えています。あなたが学んでみたいと思う研究領域を選んでください。(複数回答可)

1 基礎・地域看護学領域 (基礎看護学、在宅看護学)

*様々なライフサイクルや健康段階にある人々への看護実践の基盤となる看護援助を探究する。看護実践の理論的背景、根拠に基づく看護援助技術の実証的研究を行う。地域で生活する人々とその家族、療養中の看護の対象者など、様々な状況の看護について探究する。さらに、看護の場を限定せず、地域包括ケアシステムにおける看護課題を研究する。

2 臨床・応用看護学領域 (老年看護学、母性看護学
小児看護学 精神看護学)

*看護援助における科学的根拠に基づいた臨床研究を行います。また、それぞれの看護学分野における効果的な看護援助の要因分析、援助方法の開発・実施・評価に関する研究を行います。

3 看護管理学領域 (看護管理学)

*認定看護管理者(実務経験5年以上、うち3年以上は看護師長相当)の受験資格が取ることができるコースです。認定看護管理者教育課程ファースト・セカンド・サードコースの学修を行います。

その他、大学院研究科に関するご意見や学ぶための条件等がございましたら自由に記載してください。参考にさせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

岩手保健医療大学大学院設置計画に関するアンケート調査結果

アンケート種類(回収数)

医療機関及び専修学校教員用 217、
 内訳：岩手県内病院 131(60%)、岩手県内専門学校 13(6%)、青森県内病院 73(34%)
 学生用 196

共通

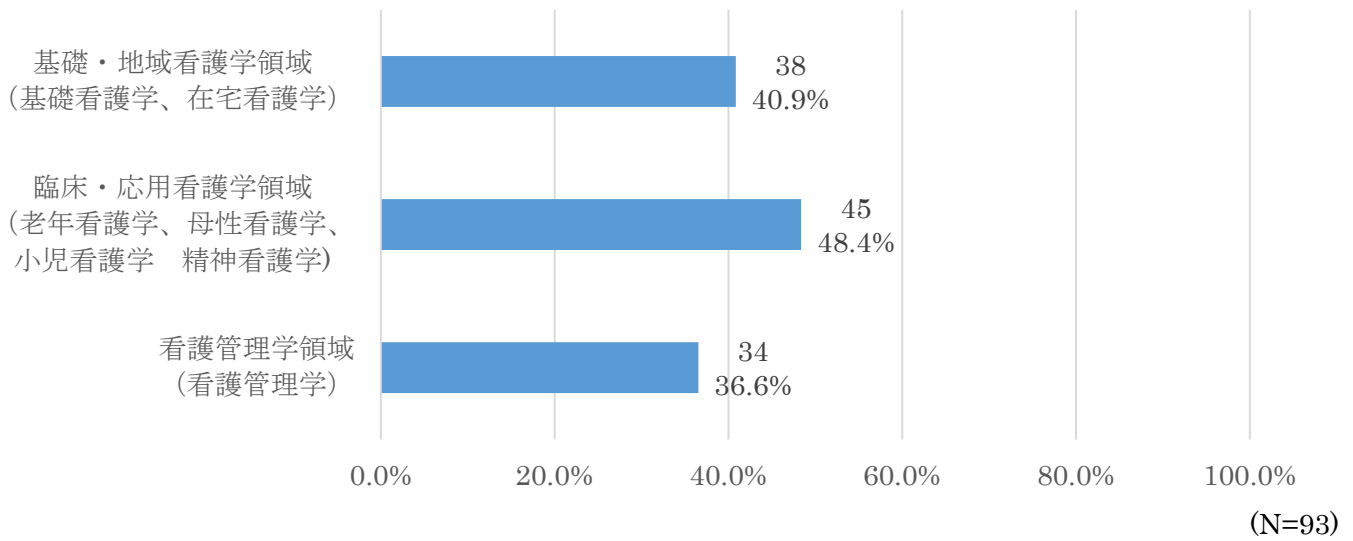
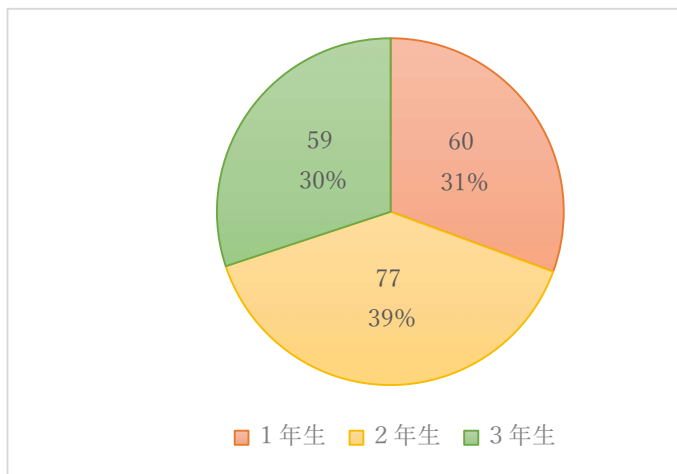


Figure 1 医療機関及び専修学校教員用 問5 及び学生用 問4

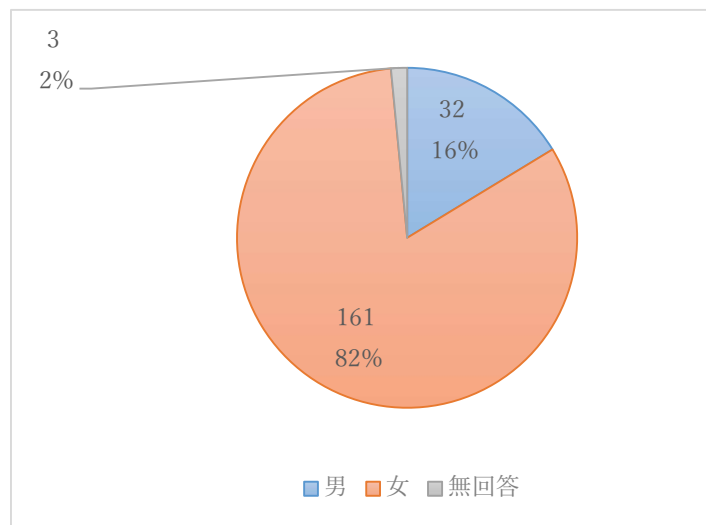
「本学では、大学院看護学研究科看護学専攻に以下の領域を設置したいと考えています。
 あなたが学んでみたいと思う研究領域を選んでください。(複数回答可)」

学生



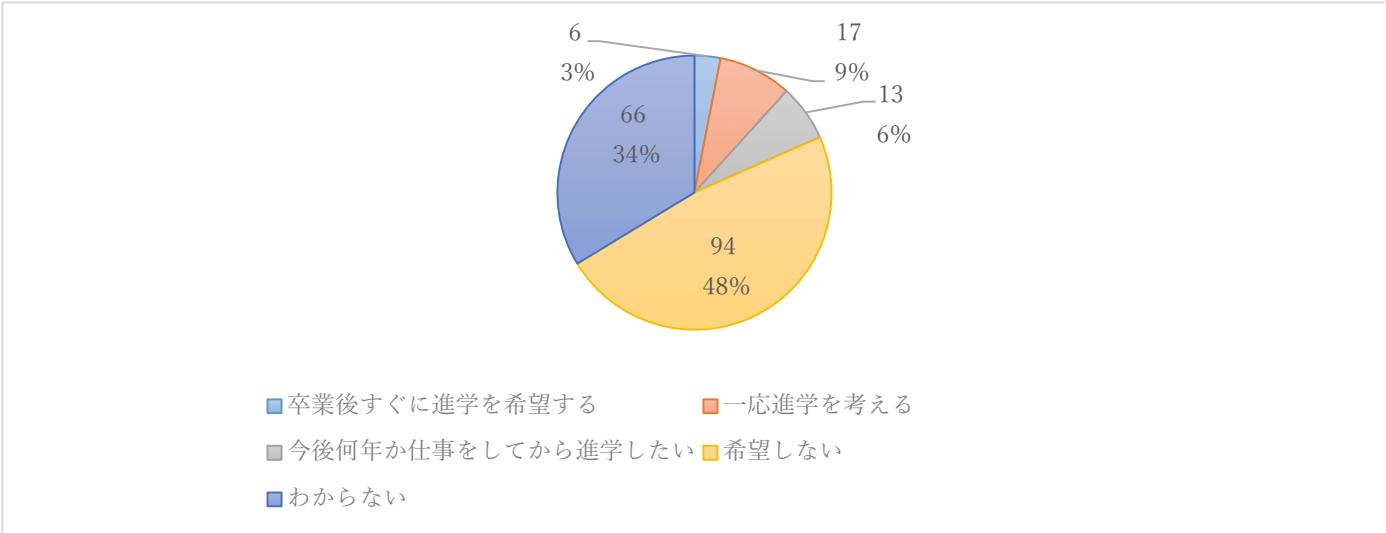
(N=196)

Figure 2 学生用 問1 年齢



(N=196)

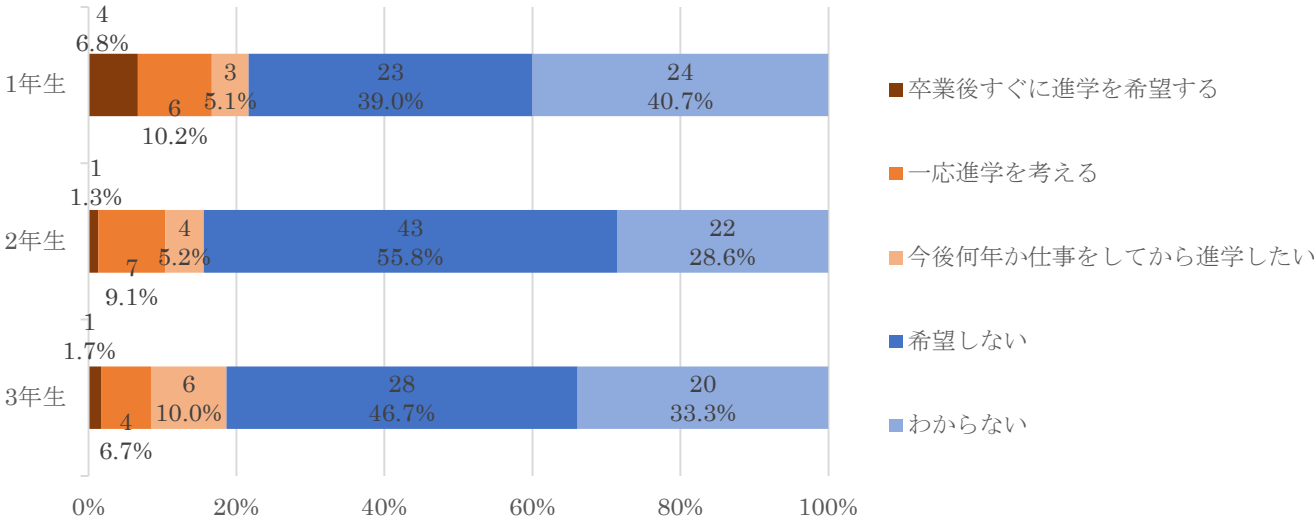
Figure 3 学生用 問2 性別



(N=196)

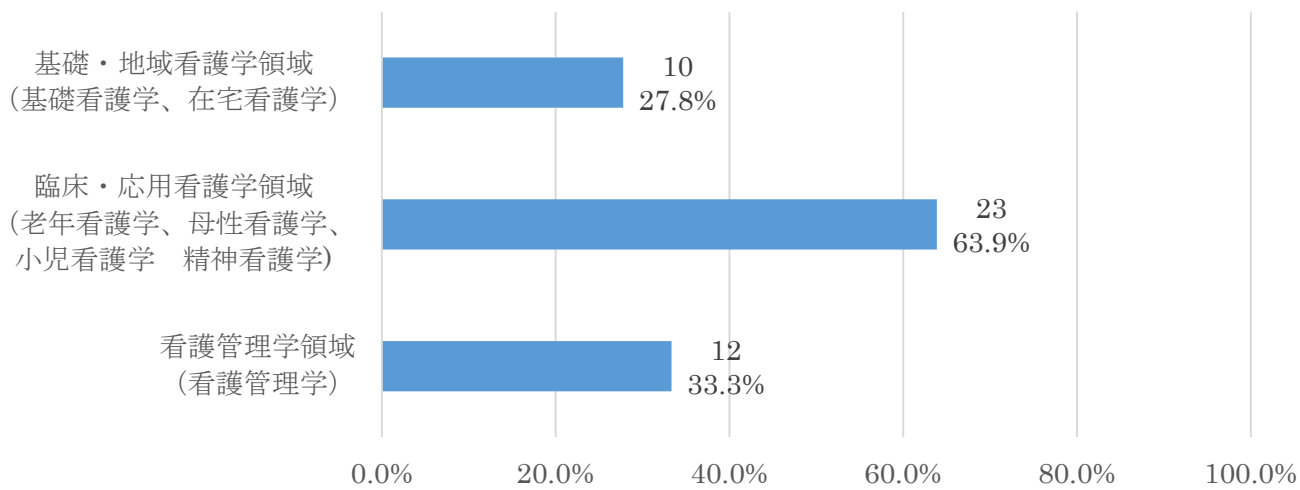
Figure 4 学生用 問3 「あなたは、本学に大学院が設置されたら進学を希望しますか」

* 学年別の有意差は、サンプル数の問題から判断できない(参考値として次頁 Figure 5)。



(N=196)

Figure 5 学年別進学希望差



(N=36)

Figure 6 学生用 問 4

「本学では、大学院看護学研究科看護学専攻に以下の領域を設置したいと考えています。
あなたが学んでみたいと思う研究領域を選んでください。(複数回答可)」

自由記述 (学生)

| |
|-----------------------------------|
| 研究する場所はあるのでしょうか。 |
| 助産師課程があったら考えたいと思った。 |
| 助産師の養成は行っていただけるのでしょうか。 |
| まだわからないけど母性看護学はどこであれ学びたいと思っている。 |
| 訪問看護をやりたいので、専門知識を身につけたいです。 |
| 正直、まだ先なので考えにくい所もありました。 |
| 大学卒業後すぐに院に行かないと入学金を払わないといけないのですか？ |
| 助産コースがあると進学したいなと思います。 |

学生確保に向けた具体的な取組内容

1 学生募集要項等の印刷物

各看護学領域の概要（研究テーマ等）をまとめた募集要項を作成し、本学在学学生及び入学希望者に配布するとともに、本学ホームページに掲載し、資料請求者へ郵送する。

また、本学ホームページに大学院に関する相談コーナーを設け、対応する。

2 各看護学領域の教員による広報活動

各看護学領域の専門分野におけるセミナー、学会等において、教員による広報活動を随時行う。また、これまで実習生の受入や実績のある医療機関等にも積極的な情報提供を行う。併せて、実習指導者会議や非常勤講師会において、本大学院設置の内容を紹介し、周知する。

3 在学生に対する広報活動

各看護領域の教員は、学部教員が兼務となることから、在学生に対して研究テーマを周知し、興味を持つよう取り組む。また、卒業生に対しては検定料及び入学金免除制度を導入し、入学の便宜を図っていることを周知する。

4 保護者に対する広報活動

後援会（総会及び理事会）及び父母との面談会等において、大学院進学について説明を行うこととする。

5 社会人に対する広報活動

公開講座等において、大学院設置の紹介、社会人に対して長期履修生制度があることを説明する。

6 その他

前項に掲げた取組をさらに拡大し、学生募集に関する情報提供を積極的に行うこととする。入試については、推薦入試、一般入試、社会人入試を実施する予定であり、大学教職員が一丸となって学生に確保に努めることとする。

広報・学生募集活動の大まかなスケジュールは、以下のとおりである。

令和2年4月初旬・・・大学ホームページ上に、設置構想を掲出

令和2年6月初旬・・・認可申請後、認可申請中として情報媒体へ掲出

令和2年11月～・・・認可後、募集要項をホームページに掲出するとともに、
医療機関、看護系大学等へ送付

大学院構想についての岩手県内のニーズ調査 （予備調査）

目的：大学院構想を進めるに当たって、岩手県内のニーズを把握する。

対象：県内の実習協力病院 11 か所の看護管理者（看護部長・総看護師長）
県内の看護専門学校 11 か所の責任者（教務主任・副校長）

調査方法：聞き取り調査（質問紙：資料 参照）

調査期間：2018年10月19日～11月13日

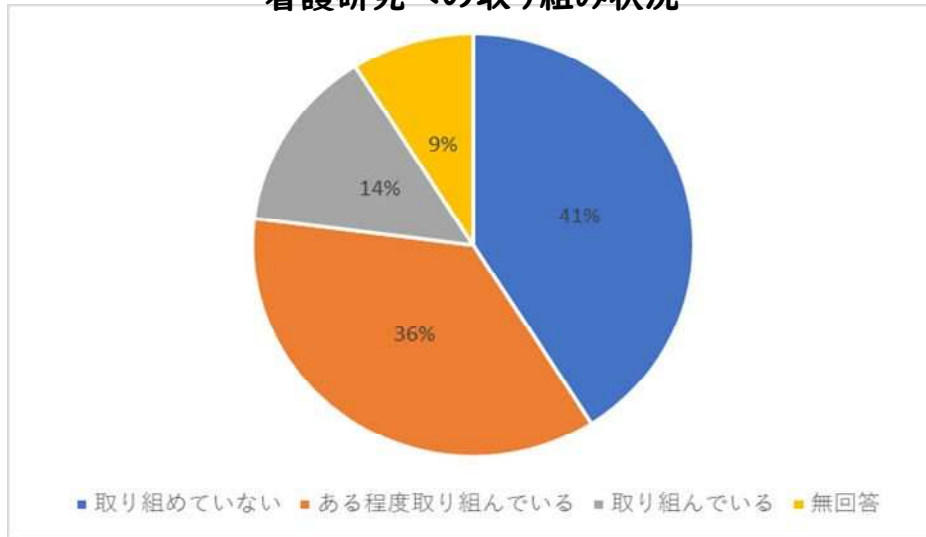
担当者：看護学部の教授5名

また、同時期に岩手県看護協会長及び岩手県医療局においても岩手県内の大学院に対するニーズ把握のための聞き取りを行った。

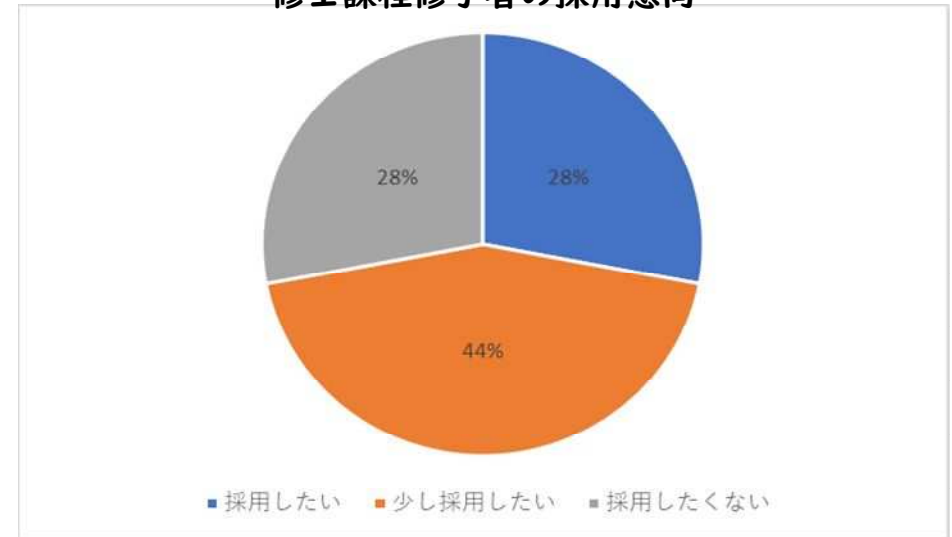
聞き取り調査結果の概要は、次ページ以下のとおりである。

大学院構想についての岩手県内のニーズ調査（予備調査） 結果について

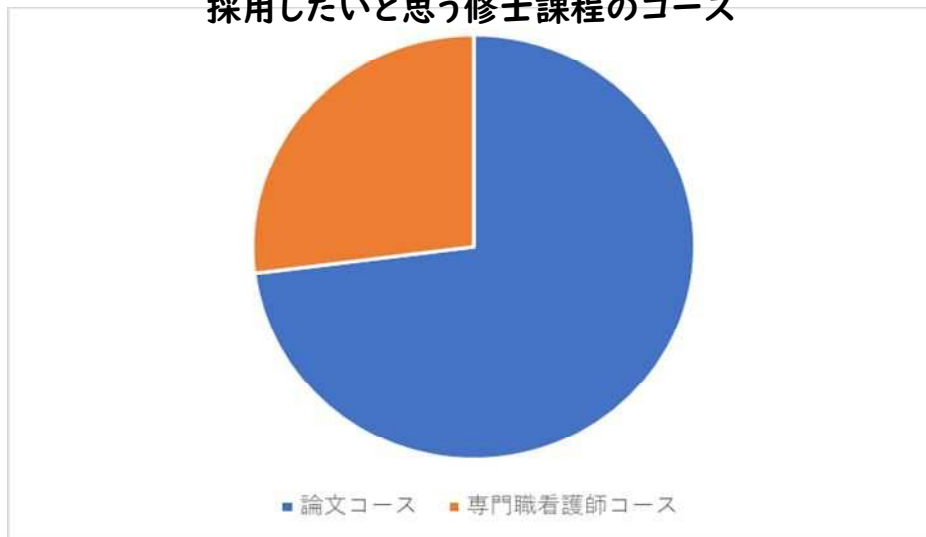
看護研究への取り組み状況



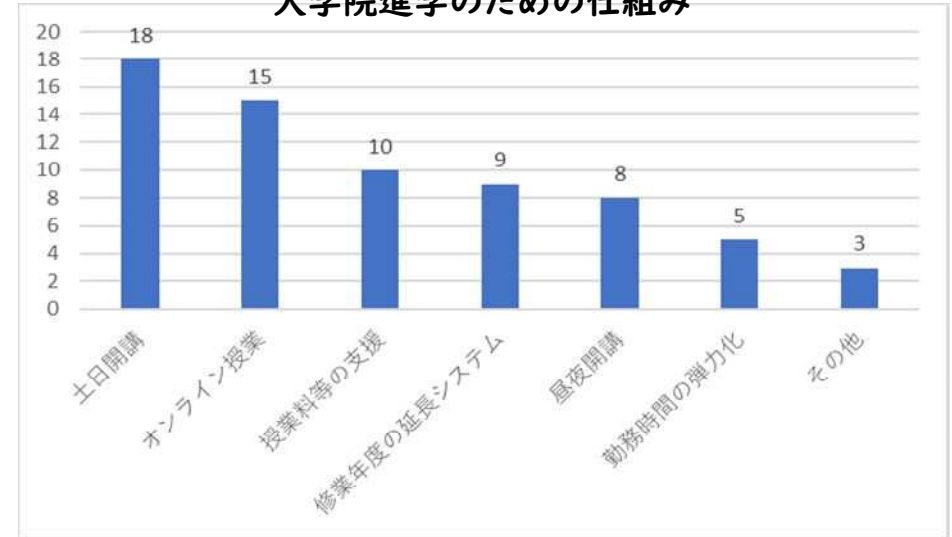
修士課程修了者の採用意向



採用したいと思う修士課程のコース



大学院進学のための仕組み



2018年：実習協力病院11か所の看護管理者（看護部長・総看護師長）及び、看護専門学校11か所の責任者（教務主任・副校長）が対象（n=22）

看護学専攻（修士課程）設置に関する調査

1. 貴施設の現在の認定看護師（CN）、専門看護師（CNS）、修士・博士課程修了者の数は、それぞれ何人ですか。

認定看護師（ ）人、専門看護師（ ）人、修士課程修了者（ ）人、博士修課程了者（ ）人

2. その方々の持っている資格をどのように活用されていますか。

[]

3. 貴施設では、看護研究にどの程度取り組んでいますか。

①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組めていない ④全くいない

上記に①又は②とお答えの方 指導体制はどのようにされていますか。

[]

4. 貴施設では、今後、修士課程修了者を採用したいとお考えですか。

①とてもある ②少しはある ③あまりない ④全くない

上記に①又は②とお答えの方 人数はどの位と考えていますか。→（ ）人程度

5. 採用したい又は、今後需要が高くなるとお考えの修士課程修了者の専攻分野を、下記のうちからお選びください。

① 論文コース：分野【基礎看護学、成人看護学、母子看護学、家族看護学、高齢者看護学、精神看護学
在宅看護学、看護倫理、看護管理、看護教育、その他（ ）】

② CNS コース：分野【家族看護、がん看護、救急看護、急性期看護、感染看護
その他（ ）】

③ その他 ： 【 特定行為に係る看護師、助産師コース、保健師コース 】

6. 今後、貴施設の職員で修士課程への進学を希望する方は、どの程度おられるとお考えですか。

- ①大勢いる ②ある程度いる ③あまりいない ④全くいない

上記に①又は②とお答えの方 人数はどの位と考えていますか。→ () 人程度

7. 貴施設の職員の中で、進学を希望する可能性の高い専攻分野は、どの分野だと思われませんか。

① 論文コース：分野【基礎看護学、成人看護学、母子看護学、家族看護学、高齢者看護学、精神看護学
在宅看護学、看護倫理、看護管理、看護教育、その他 ()】

② CNS コース：分野【家族看護、がん看護、救急看護、急性期看護、感染看護
その他 ()】

③ その他：【特定行為に係る看護師、助産師コース、保健師コース】

8. 上記で、職員に薦めたい分野やご自身が専攻したい分野があれば、お聞かせください。

論文コース () () () ()

CNS コース () () () ()

その他(特定行為に係る看護師、助産師コース、保健師コース)

9. 修士課程への進学を薦めるとしたら、どのような仕組みがあれば良いですか。

①昼夜開講 ② 土日開講 ③ 修業年数の延長システム ④オンライン授業

⑤授業料等の支援 ⑥勤務時間の弾力化 ⑦ その他 ()

10. 看護学の大学院や専門教育の在り方等に関して感じていることや考えていることなどがあれば
お聞かせください。

()